

62. Expression of a bookshelf

081092009 杉森裕子
指導教員 市川尚紀 講師

読書空間 本棚 図書館 探検 学習 個人空間

1. 設計主旨

図書館は以前、本や資料を探すほかに、地域の情報発信の場として機能していた。しかし、インターネットの普及や活字離れ等の理由から、図書館の役割が人々の生活から離れていくようになった。また、図書館は自学習の場としても役割を果たしてきているが、自学習に来る人は図書館の本にほとんど触れることはない。さらには、大型図書館のほうが本の種類が充実しているという意見もあり、街の図書館の存在価値はますます衰退している。本計画では、現状の図書館の疑問点から、読書空間を工夫することで、行きたくなる図書館、他にはない新しい空間の使い方の図書館を考える。読書空間の使い方として、本棚に注目し、本棚による新たな空間の形成により、訪れる人が本を探す楽しさや、自分の好きな空間を見つけ、図書館に行く楽しみを見つけてもらえる空間を目指す。

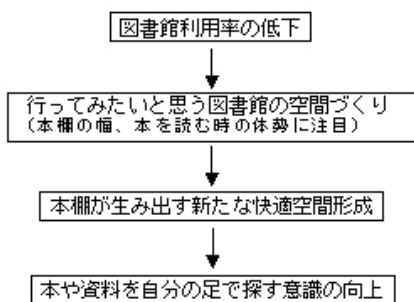


図1 コンセプトダイアグラム

2. 計画地概要

広島県広島市中区基町にある広島市中央公園内、西側の太田川沿いを計画対象地とする。

(1) 現在抱える問題

この公園内には旧市民球場があり、現在も跡地利用に関しての審議が続いている。また、公園内ある子供文化科学館などの様々な文化施設も老朽化となしている。旧市民球場が解体されたことにより、公園の中心部から原爆ドーム方面の風景が見通せるようになった。さらに、商工会議所の建物についても問題を抱えている。平和記念公園から見る原爆ドームの背景に商工会議所のビルが映り、景観を壊しているという意見などから、老

朽化に伴い、旧市民球場跡地に移転予定をしていたが、現在再検討中となっている。

(2) 太田川と堤防の関係

この公園のそばには太田川があり、川辺は河岸緑地として整備されている。しかし、公園内からは堤防が壁となり、川辺を見ることができない。初めてこの土地を訪れたひとは気づきにくいと思われる。

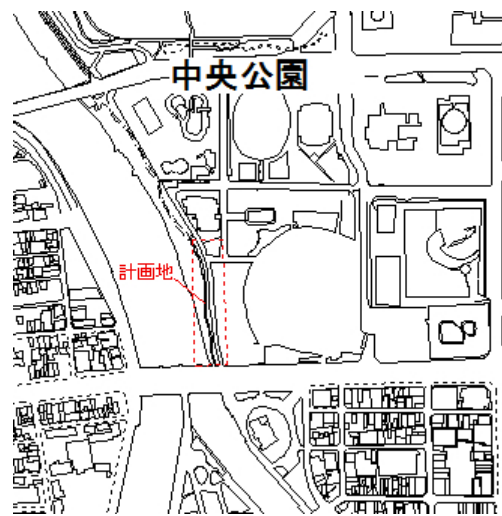


図2 計画対象敷地

3. 計画内容

3.1 本棚の利用法

(1) 本棚のつくり

通常サイズの本棚を2つ合わせると、人が入れる幅になる。そこに目を付け、本棚に人が入れる空間をつくる。そして、本棚の中で人が自由な姿勢で本が読めるように、様々な姿勢に合わせた形の空間にする。

(2) 人が入る空間、窓、出入り口の形

本棚には、人が入る空間、窓、出入り口がそれぞれ曲線の形に模る。本棚のフレームもそれらの曲線にあわせて模り、四角い本棚のイメージを柔らかくしていく。

人が入るスペースでは、本棚の外から読んでいる姿が完全に見える形や、上半身がうまく隠れて人の視線が気にならない形とする。また姿勢は、靴を脱いで足を延ばす姿勢、ソファで寝転がるような姿勢、いすに座る姿勢などを計画する。さらに、学習用の机が備わった本棚空間も取り入れていく。

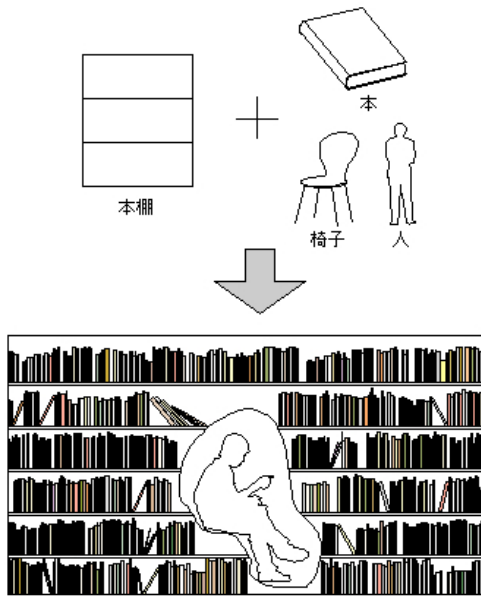


図3 本棚のイメージ

3.2 本棚の配置と空間構成

多くの図書館の本棚は、規則正しく並んでいることが多い。これには、目的の本を探しやすく、また、整理しやすいという理由から採用されている。しかし、本と家具と人が収納される本棚では、通常のように規則正しく本棚を並べてしまえば、空間にゆとりがなく、窮屈さを感じる。これらを解消する為に、五角形と六角形の空間をつくる。

その五・六角形の空間にある本棚には、それぞれ1種ずつの専門分野本を置くことにする。そして、近似する分野を隣接させるように配置させ繋げていく。



図4 本棚の空間構成イメージ

3.3 本のジャンル別の空間

五・六角形の空間にはそれぞれジャンルの異なる本置き、分野ごとの独立した空間をつくる。ジャンル分けは、図書分類法をベースに以下の項目で分ける事にする。

- ・ 総記
- ・ 宗教
- ・ 社会科学
- ・ 家政、生活科学
- ・ 哲学
- ・ 歴史
- ・ 自然科学
- ・ 地理、地誌、紀行
- ・ 文学
- ・ 産業
- ・ スポーツ
- ・ 技術、工学
- ・ 娯楽
- ・ 言語
- ・ 芸術
- ・ 新聞、雑誌

3.4 堤防と建物の一体化

公園の太田川沿いには、雁木や小道があり、緑も豊富である。しかし、堤防により、公園の中心からは太田川の景色は見渡せず、堤防を上がらないと、水辺のある自然に触れ合うことができない。堤防は水害から街を守る

大切な役割があり、壊すことはできない。しかし、その堤防を上手く建物と融合させ、新たな堤防のデザインをつくる。

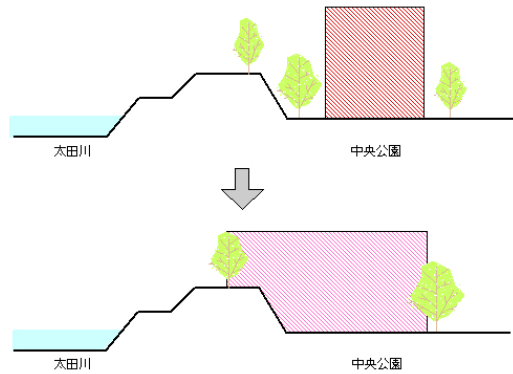


図5 堤防と建物の一体化のイメージ

3.5 計画地の景観

今回の計画対象地には、PL教団や商工会議所が立ち並ぶところである。旧広島市中央公園のシンポジウム等で公共空間の中にはあまりふさわしくない建築物として取り上げられている。そのことを踏まえ、50年後の公園の未来を考えた計画を踏まえた図書館の配置計画を行っていく。計画地内にある施設（PL教団～商工会議所）を移転後、新たな市民の場としてこの図書館を計画するようにする。原爆ドームの景観を考え、図書館は、低層の建物とする。

4. 総括

今回の計画は、本離れが増え、インターネットの普及により、本や資料を図書館に足を運んで探すが減った現代社会にとって、街の図書館の新たな試みにより利用者を増やす事である。人が本棚に完全に入り込み、そこで時間を過ごす工夫は、狭い空間の中の快適さを感じてもらえる事を期待している。また、自分のスタイルにあった狭い空間を見つけてもらう楽しさは、幼いころ、押入などの狭い空間に隠れて遊んだ記憶を連想させることができるだろう。

今回の計画で、家具1つに注目して、その家具の使い方や構成の仕方の考え、建築物の設計へとつなげていった。この作業順により、その施設で人が快適に過ごせる空間をあらゆる人のタイプを考えて計画することが出来た。図書館など家具が重要となってくる公共空間は、今後、家具の斬新なアイデアによる空間構成により、多くの人が視覚や感覚で楽しめる新たな空間をつくって人々を楽しませていってほしいと思う。

建築概要

- 所在地：広島県広島市中区基町
- 主要用途：図書館
- 構造：RC造
- 規模：2階建て